

営業の概況

売上高・利益共に過去最高で、増収大幅増益

景気は回復基調

当連結会計年度におけるわが国経済は、上期においては世界経済の回復を背景とした輸出の増加と国内生産の増加に伴う設備投資に支えられ、景気回復がより確かなものとなりました。企業収益も顕著な回復を見せ、大手企業から中堅・中小企業へ、製造業から非製造業へと広がりました。しかしながら、下期に入り原油価格や原材料価格の高騰に加えて、台風や地震といった自然災害の影響もあり、年末にかけて景気回復の減速感が強まってきました。

情報化投資が本格的に回復

当社グループの属するIT関連業界におきましては、企業の収益改善とブロードバンド環境の進展を背景に「e-Japan戦略」の具体的進展、個人情報保護法の施行を前にしたセキュリティ対策への関心の高まりや、2000年問題対応システムの買い替え需要に加えて、IT投資促進税制等の支援策もあり、パソコン等のコンピュータ関連機器が回復基調となるなど、先延ばしされていた企業の情報化投資が本格的に回復してきました。しかしながら、企業のIT投資に対する投資対効果の明確化やトータルコスト削減への要求は従来にも増して強まっております。

企業の経営改善につながるIT活用を提案

このような状況の中で当社グループは、「お客様の目線で総合力を活かし、信頼に応える」をスローガンに掲げて、ブロードバンド環境の進展やセキュリティへの関心の高まりをビジネス拡大の好機ととらえ、当社グループの持つ総合力を活かした複合システムや関連サービスの提供等、企業の経営改善につながるIT活用の提案に努めました。同時に、「たのめる」¹、「ODS21」²、「SMILE」³、「OSM」等の重点戦略事業に注力し、加えて「SPR」のより一層の活用と浸透を図り、提案品質の向上と営業活動の効率化を推進しました。また、インターネットを活用した基幹系および情報系システムの抜本的な見直しと融合等、お客様の課題解決に引き続き注力いたしました。

各重点戦略事業の内容については6ページをご覧ください。

増収、大幅増益を実現

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高3,724億81百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益170億9百万円(前年同期比84.5%増)、経常利益170億36百万円(前年同期比88.1%増)、当期純利益は112億47百万円(前年同期比357.7%増)と、増収大幅増益となりました。

外部環境

景気回復による企業収益の改善・金融不安の解消
各種リプレース需要の発生
ブロードバンド環境の進展と
セキュリティへの関心の高まり
IT投資促進税制等の政府の支援策

企業のIT投資が顕著に回復

当社グループの取り組み

「SPR」の活用浸透による提案品質の向上と
効率的な営業活動の展開
複合・統合システム提案による競争力の向上
原価管理強化、販管費率の改善で収益性が向上
「たのめーる」による顧客開拓効果
旬なセキュリティビジネスを強化

「SPR」による科学的なアプローチ

SPR : Sales Process Re-engineering の略称

当社独自開発の CRM + SFA システム
(顧客管理) (営業支援)

お客様のプロフィールを正確に知る

お客様との取引履歴(過去)を知る

お客様への提案状況(現在)を知る

お客様の要望・ニーズ(未来)を知る

科学的営業でCS向上と効率アップを同時に実現

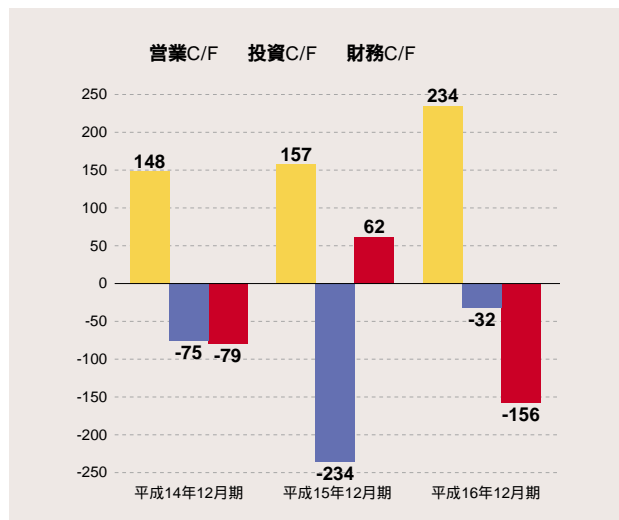
当社では、お客様の満足度(CS)向上につながる最適な提案を効率よく行う仕組みとして、「SPR」を活用しています。

「SPR」は当社が独自に開発したシステムであり、顧客管理(CRM)と営業支援(SFA)をあわせた機能を持っています。「SPR」では、お客様のプロフィール情報はもとより、お客様との取引履歴(過去)、お客様への提案状況(現在)、お客様の要望・ニーズ(未来)に関する情報をデータベース化しています。

また、データベースの中には、日々2万社に及ぶ面談・コンタクト情報に加えて、外部の企業情報なども含まれています。これらの情報を多面的に分析し活用することで、個々のお客様に最適な提案を効率よく行うことが可能となっています。

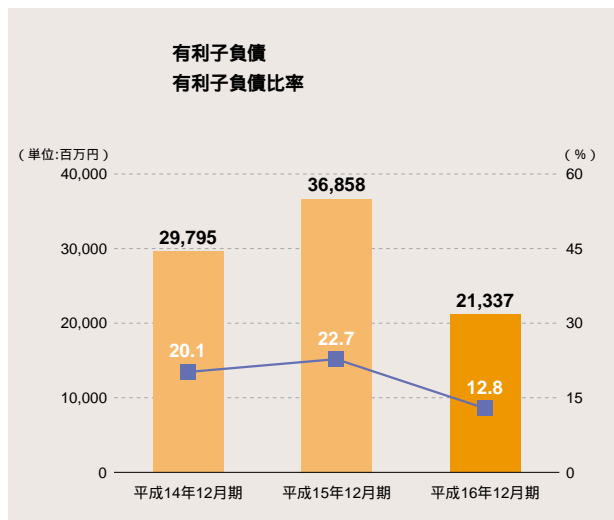
キャッシュ・フローの推移

(単位: 億円)



好調な業績を受け、営業活動によるキャッシュ・フローは当連結会計年度において前年同期に比べ77億45百万円増加しました。前年同期には新本社ビルの取得があったため、投資活動によるキャッシュ・フローは前年同期に比べ201億60百万円減少し、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進めたことなどにより、前年同期に比べ219億1百万円増加しました。

有利子負債の推移



当連結会計期間におきまして、過去に発行しました社債の償還を全て終了しました。また、前年同期には新本社ビルの取得があったため、借入金が一時的に増加しましたが、好調な営業活動によるキャッシュ・フローを背景に借入金の圧縮を進めた結果、有利子負債(短期借入金、長期借入金および社債)は約155億円の減少となりました。

事業セグメント別の概況

システムインテグレーション事業

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、オリジナルのナレッジマネジメントシステム「ODS21」や統合型基幹業務システム「SMILE」に注力した結果、カラー複写機やパソコンおよびサーバの販売が引き続き好調に推移し、売上高は2,387億29百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、教育等によりシステム導入後をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、Webサイトおよびカタログによるオフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」が引き続き好調に推移し、OAサプライを中心に引き続き高伸長を続けたことに加えて、保守等も堅調に推移し、売上高は1,309億59百万円(前年同期比12.3%増)となりました。

その他の事業

その他の事業では、株式会社富士見建設の属する建設業界は引き続き厳しい状態にありましたが、積極的な営業活動を展開した結果、売上高は27億92百万円(前年同期比49.4%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位:百万円)

